



二十六聖人

令和4年7月号

(令和4年6月26日発行)

教会だより

2022. 7 No. 349

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296
<http://www.futamatagawa-cc.com/>
主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カンジグ)

ある日の不思議な夢

今年も半分が経ち、もう七月になりました。七月は、前にもこの巻頭言を通して申しましたが、わたしにとって「聖職者の月」のような気がします。なぜなら、七月五日は「韓国の聖職者たちの守護の聖人である聖アンデレ金大健神父」の祝日であり、十三日はわたしの「叙階記念日」で、二十五日はわたしの守護の聖人である「聖ヤコブ」の祝日であるからです。そこで、毎年、七月になると、わたしは神様がどれほど慈しみ深くわたしを見つめておられるのかを考えるようになり、心より感謝しながらも、一方、司祭としての自分を反省することになります。その反省の影響なのか分かりませんが、わたしは最近、不思議な夢を見て、今月の巻頭言にはそれを書き、信者の皆さんと分かち合いたいと思います。

わたしが夢で見たのは、はるかに高くて大きい真っ白な城でした。その城は一つの建物でしたが、城自体が一つの教会でもありました。その城には数えきれないほど多くのバルコニーがあり、そのバルコニーには長くて白いろうそくを持っている天使たちが一人ずつ立っていました。城はそのろうそくの灯りでもっと輝いていたのです。わたしは一目で、その城が神様の都であることが分かりました。城に入ってみると、先ほど見たバルコニーにはそれぞれの祭壇がありました。その祭壇は、すべての人の祭壇でしたが、よく見ると、すべての祭壇は同じではなく、それぞれ異なる形であり、飾られているろうそくやお花も全く同じではありませんでした。その城にいる人たちはその祭壇を、まるで、階段のように踏みながら巡礼していて、それがその城の巡礼方式のようでした。わたしも多くの人たちとともに巡礼していましたが、その日には新しい聖人の誕生のお祝いが行われました。その新しい聖人は特別な壇の上に立ち、その都のすべての人たちからお祝いの礼を受けていました。その姿を見つめていたわたしは「うらやましいなー」と思いながら、聖人たちの祭壇を踏む不思議な巡礼を続けていました。ところが、その多くの祭壇の中で、わたしはとても暗くて何も飾られていない祭壇を見つけました。そして、それについて説明してくれる声を聞きました。その声の説明によると、その祭壇は「世の中で自分の人生を忠実に歩まなかった人の祭壇である」ということでした。確かに、その祭壇には誰も訪れず、とても寂しく見えました。そして、その寂しい祭壇を最後の場面として、わたしは夢から覚めました。

その後、わたしはその夢について考えてみました。その祭壇がすべての人のそれぞれの祭壇であれば、その中にはわたしの祭壇もあるはずでしょう。その祭壇は最初から美しく用意されていたか、或いは、まったく何もない、ただ空いている場所だけが用意されていたかは分かりません。そして、生きていた生活によって、最初の美しい祭壇は更に美しくなったり、逆に少しずつ崩されたりしているかもしれません。或いは、まったく何もない所に、自分の祭壇を少しずつ建て始め、また、飾っているかもしれないし、全く何もせずに放置しているかもし

れません。そう考えながら、わたしは今の神様の都にある自分の祭壇が気になりました。そして、司祭という大変恵み豊かな職務に携わるように召されているのに、自分の毎日を無駄にしているのではないかと反省することになりました。

わたしの守護の聖人の聖ヤコブは、ただの漁師でしたが、ペトロやアンデレ、また、自分の兄弟のヨハネと一緒に、イエス様の最初の弟子として選ばれました。その弟子としての道は簡単で楽な道ではなかったはずですが、でも、ヤコブは自分のすべてを捨ててイエス様に従い、イエス様の愛の道から離れませんでした。そして、韓国の聖職者たちの守護の聖人である聖アンデレ金大健神父も、イエス様の愛の福音のために命を捧げ、神様の慈しみと愛を証しました。それで、今は神様の国で、その神様の栄光に与っているのです。わたしももっと奮起しなければならないと思います。そして、信者の皆さんもご自分の守護の聖人に倣い、イエス様の愛の道を強い信仰を持って忠実に歩んで、神様の都にある各々の祭壇を美しく飾り続けることができるよう、お祈りいたします。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求



6月教会委員会報告

【司祭】

6月になって「イエス様のみこころ」を過ごしていますが、イエス様のみこころを学ぶために、みこころとはどのようなものかを黙想し、考える時間を設ける事が大事だと思います。6月の間、教会委員会のメンバーの皆さんも、少しでも、イエス様のみこころに近づくことが出来ればと思います。

今日の福音の中でイエス様は弟子たちの為に、私は父にお願いしようと仰いました。(ヨハネ 14:16) 私たちも、他の信者さんたちのために神様に必要な恵みをお願いする心を持つことが出来れば素晴らしい賜物だと思います。皆さんの6月が恵み豊かな6月となるようにお祈り致します。

【今月の検討項目】

1. 「敬書の集い」を新たに始める提案がありました。
集いを始める前に、信徒の皆様へ理解いただくための広報活動を行う事になります。
神父様より：継続する集いとする事が大切です。
2. 信徒意見に関して（別紙資料配布）
 - ① ステンドグラス常設：アンケート（案）に関する説明が行われました。
討議された意見を踏まえ、再度アンケート（案）を作成し提示し慎重に進めます。
 - ② 教会を訪問された方が教会に入る敷居を低くするための案内板掲示。
・事務所から掲示案が出されました。運用しながら経緯観察致します。
 - ③ 売店部分の整理・整頓が必要。
 - ④ 売店再開時には、ディスプレイ等工夫して欲しい。（情報交換掲示板の作成等々）
③④は、共通の問題です。目的は、今の空間をいかに効率よく使用するかですので、インテリアデザイン経験者に6月11日（土）に参考意見を求めます。意見：売店担当者も方向性を決める時に参加した方が良い。売店を早く再開して欲しい。
 - ⑤ 教会誌「二十六聖人」を教会訪問者が手に取りやすい置き方の工夫。
・広報委員会での打ち合わせの議題とし検討します。
・他教会の情報等あれば、お知らせ下さい。

- ⑥ 神父様の聖体拝領を月により移動できないか。
 - ・神父様の移動は行いません。聖体拝領をコロナ前に戻していく事にします。
 - また、機会を見て、ご聖体について神父様からお話をいただく事にします。
- ⑦ 二俣川教会の守護聖人・日本二十六聖人を知る企画を考えて欲しい。
 - (案) ①各会から企画案を募る。
 - (案) ②日本二十六聖人に詳しい方を招き、黙想会を開催する。
 - (案) ③日本二十六聖人のカードを作成する。(2月5日 日本二十六聖人殉教者の祝日に配る・置くなど)
- HP管理(主にメンテナンス)は、外注先の詳細サービス内容を検討し決定します。
- 桜の木の安全性確認と取り扱いに関して：台風時期前に、専門家に倒木の危険性の判断をいただく。
- 聖堂内蛍光灯のLED化：工事は無事終了しました。(保証期間：高所部も含め1年・調光機能なし)

【その他の検討・確認事項】

1. 事務所

- ・ミサ対策人員は5名から4名に減員します。
- 理由：新規の検温機器導入に伴い4名で対応可能と判断したため。
- 4名内訳(ミサ対策チーム：2名、地区より：2名)
- ・倉庫前の避難道の整備(コンクリート化)を緊急で行います。理由：倉庫側の避難通路用の木が腐食し危険な状態です。(工事終了まで立ち入り禁止とします。)

2. 委員会・信徒会

(典礼委員会)

- ・6月より、週日のミサは水曜日・金曜日の10時からです。
- ・主日11時ミサではキリアーレ(賛歌)が歌になりました。聖歌隊と共に小さな声で歌いましょう。
- ・様子を見ながら、少しずつコロナ前のミサの状態に近づけて行きたいと考えています。
- ・6月12日(日)11時ミサで幼児洗礼1名を予定しています。

(教会学校)

- ・5月15日(日)から教会学校が再開されました。
- *子供が定期的に教会に集まることの重要性を再認識しました。
- ・6月19日(日)11時ミサで1名が洗礼と初聖体、2名が初聖体を予定しています

(キリスト教講座)

- ・5月22日(日)フォローアップの第1回目「新信徒の集い」が行われました。

(共同墓地管理委員会)

- ・5月7日 K様の納骨式を執り行いました。教会出席者：姜神父様, K., S.
- ・第1回墓地委員会会議 出席者：A., K., S.
- *2022年取り組み合意事項(奉仕作業の標準作業書作成)

(ヨゼフ会)：6月19日(日)第二回定例会を予定・・・コーヒーサービス「光」の再開を検討中

(マリア会)：with コロナとして活動検討中。

◇各会の活動再開に当たっては、再開に関しての感染症対策案の情報共有化が必要です。例えば「運営方法」「人数」「台所の使用方法」等。各会は教会委員会へ提案をお願いします。

(青年会)

- ・巻頭言朗読を継続しています。
- ・聖霊降臨カードを作成しました。

- ・5月15日（日）12：00～定例会を実施（第3週目12：00～）しました。
次回は6月19日（日）12：00～を予定しています。
（インターファミリーグループ）
- ・5月29日（日）12：00～ミーティングを実施しました。
（日本の葬式の文化や、各自の疑問について）
- ・次回は6月26日（日）12：00～です。（於：台所）
テーマ：シノドス3の質問（自分の考えをはっきり声に出す）

以上

～シノドスへの準備のための10の質問より～

第4回

⑥「教会と社会における対話」

わたしたちの教会で、そのビジョンや方針はどのように話し合われ、決められていますか。近隣の教区、地域の修道会、信徒団体などと、どのような対話と協力をしているのでしょうか。信者以外の一般の人々と、どういった対話、協力の経験があり、彼らからどのように学んでいますか。



（姜神父様のコメント）

シノドス6番目の質問は、「教会と社会における対話」です。対話には、根気と忍耐が必要ですが、この根気と忍耐を通して私たちは相互の理解を深めることが出来るという事です。教会が教会の仲間たちだけと対話することで良いのかということはこの質問は強調しています。教会の中での対話も大切ですが、教会の外の人達と対話をする姿勢も大切にしなければならないと理解できます。近隣教区・地域の修道会・信徒団体や信徒運動体、それは教会関係団体ですが、小教区以外の団体ですので交流することは難しいし、対話するためには共感出来るテーマが必要です。相手が持っている問題や課題に対して私たちが関心を持っていなければ、対話することさえ出来ません。ですから、小教区の目を外に向け、外の話をお聴こうとする意志と姿勢が必要です。教会以外の団体（政界、経済界、文化界、市民社会、貧困にあえぐ人々）、あるいは教会に反対している人達にも教会は広い心で聴く姿勢が必要であることが質問の要点です。

二俣川教会にも委員会や団体のメンバー達がありますが、自分の団体以外の各委員会・各団体が困っていることに対して情報の交流が無いのではないかと感じます。大体こうだろうというものがあったとしても、助けを乞う姿勢も、共に悩む姿勢もあまりみられない。悩みを共有するという積極的姿勢と交流が無いのではないかと感じます。バザーなどの教会全体のイベントでは協力を求め合いますが、個々に聴き、円滑的に意見交換する場が無いと思います。

私たちが素直に各委員会・団体の悩みをオープンにすることで、違う観点からのアドバイスがあると思います。閉鎖性が無いと言っても、実際にはあります。教会全体を見ても、2000年の間、教会を護りながら宣教や対話を行って来ました。けれども、自分の賜物を護りながらも開かれた心をもって他の人たちや団体、社会の団体も含めて対話をしようとする強い意志が必要となっていることを、私たちはこの質問から気付けると感じます。

6月5日（日）聖霊降臨の主日をお祝いしました！

今年で4回目となる手作りの“聖霊降臨カード”。今年も協力して下さった青年&中高生の皆さん、ありがとうございます。皆さんのお陰で300枚ものカードが作られ、二俣川教会共同体の方々にそのカードが届けられ、皆で聖霊降臨をお祝いすることができました。

教会委員会

“聖霊の7つの賜物”



じょうち
① **上智 Wisdom**

神様の意向に沿って生きることの素晴らしさを悟る知恵、そしてそのような生き方を求め、続けていくための聖霊の力を願い求めましょう。

そうめい
② **聡明 Understanding**

人間の知恵では理解できない神様の“救いの真理”を理解できるように助けてくださる聖霊の力を願い求めましょう。

けんりょ
③ **賢慮 Counsel**

善悪を正しく分別・判断できるように導いてくれる、聖霊の力を願い求めましょう。

ごうき
④ **剛毅 Fortitude**

逆境にあっても信仰を守り、正しいと信じることを貫き通す勇気を願い求めましょう。

ちしき
⑤ **知識 Knowledge**

聖書と教会の教えを学び、その学びを基準として、生活の中で正しい識別ができるように聖霊の力を願い求めましょう。

こうあい
⑥ **孝愛 Piety**

本当の意味で神様を自分の父として認め、受け入れて、神様を愛する心を持つことができるように聖霊の支えを願い求めましょう。

けいらい
⑦ **敬畏 Fear of the Lord**

神様からの罰を恐れることではなく、神様を傷つけ、離れることこそを畏れる心を聖霊に願い求めましょう。





紫陽花が美しい季節になりました。今回はいつも皆さまにご協力をお願いをしております、「ステラマリス帽子を編む会」のステラマリスについてお伝えしたいと思います。

長い間 AOS (Apostleship Of the Sea) 「船員司牧」とよばれていましたが、100 周年を迎えた 2020 年に船員センターの愛称で親しまれてきた「ステラマリス Stella Maris (ラテン語で『海の星』の意味) が正式名称になりました。

ステラマリスは、ローマ教皇を最高責任者とする教皇庁の統合的人間開発促進のための部署の下に位置づけられており、地域別、国別、教区別に組織され、世界各国を移動する船員たちの福利、厚生、医療、司牧的なケア、家族の支援などを目的としています。教皇庁人間開発のための部署は 7 月の第 2 日曜日を「船員の日」と定め、世界中の司牧者、信徒に船員たちのために祈るように呼びかけています。「船員」というと、陸で生活している私たちにはほど遠い存在のように感じられますが、私たちが生活する上で、日用品の 99%、そして日本の輸出入全体の 99.7%が「みなと」を経由しているともいわれています。つまり船員たちの働きが無ければ、生活、生命が成り立たないほど、私たちは船員の働きに深いかわりを持っていると言えるのです。

カトリック横浜司教区に所属する STELLA MARIS 横浜も、横浜港・川崎港・清水港・焼津港でカトリック教会の司牧活動として船員等海にかかわる方々への支援活動を行っています。船員たちの立場は弱く、長期に及ぶ航海の中で彼らは様々な問題やストレスを抱えています。そして常に大自然と闘い世界中を往来する過酷な労働環境に置かれています。このような人びとが入港した際、ステラマリス スタッフは船を訪れ(訪船活動)、船員に地域情報を提供し、近隣の町や教会までの送迎サービス等を行っています。また彼らの話を聞き、必要に応じたサポートを行います。(※ステラマリス スタッフは前もって税関からの許可証を得て訪船しています。また、港と船内での安全性については、規範に従っています。)

年末には、長期間国に帰ることのできない船員に、少しでもクリスマス気分を味わってほしいと、毛糸の帽子、タオル、石鹸等をセットにしてクリスマスプレゼントとして贈っています。船内で船員たちは常にヘルメットを被っています。これは金属でできた船の上での生活の中で、頭部を守るためのものです。そして毛糸の帽子は、そのヘルメットの下に被ることによって、クッションの役目を果たします。その大切な役目を果たす毛糸の帽子を、カトリック二俣川教会の皆さまにも編んでいただいています。またタオル、石鹸等の献品のご協力もいただいています。以上、ステラマリスの活動についてご理解いただけましたら幸いです。これからもご協力をよろしくお願いいたします。

(日本カトリック難民移住移動者委員会と STELLA MARIS 横浜の HP より、資料として一部引用させていただきました。)

マリア会 H. I.

【編集後記】新型コロナも下火になり人々の間でも活発な動きが見受けられます。教会内でも色々な提案がなされる中で、6月、7月の教会委員会で取り上げられた、訪問者や通行人への教会への入りやすさの工夫が大いに気になります。隣人に対する気配りも大事ですが、自分の心構えも大事だと思います。マリアガーデンで話しかけられたり、保育園児が聖堂見学をしたり。興味があるのかな? 歩道に面した案内板、庭のマリア像やお花を見ながら教会の入口へ。訪問者への心遣いの言葉。思い浮かべただけでも嬉しくなります。(S. W. 記)